

地域ケア会議の開催要件に関する一研究

—自由記述の分析を通して—

奥村あすか(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 潮谷有二(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 宮野澄男(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 吉田麻衣(長崎純心大学医療・福祉連携センター)
 HP: <http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/>
 FB: <https://www.facebook.com/cmw.njunshin>

1

I. 研究の目的と背景

- 長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、2014(平成26)年2月に全国の地域包括支援センター(以下、包括という。)を対象に「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査(以下、「全国包括調査」という。)」を行った。
- なお、当該調査の結果については、潮谷ら(2014)、吉田ら(2014)、奥村ら(2014)、宮野ら(2014)が『純心現代福祉研究 第18号』に報告している。
- 特に奥村ら(2014)は、当該調査から得られた「地域ケア会議の開催要件」に関する自由記述の内容に関して(n=695)、樋口(2004)が開発したKH Coder (Ver.2.beta.31)を用いてテキストマイニングを行い、形態素解析の結果を基盤とした語彙の共起関係から「地域ケア会議の開催要件」に係るキーワードを推察している。

- そこで、本報告では、奥村ら(2014)の研究成果を踏まえ、それを引き継ぎ発展させるということを視野に入れて、包括が地域ケア会議を開催するにあたり、何を必要としているのか探索的に明らかにすることを目的とした。

2

II. 方法

(1) 調査方法	質問紙を用いた自計式の郵送調査法
(2) 調査期間	2014年2月から2014年2月末日。
(3) 調査対象	全国の包括4,834箇所を対象とする悉皆調査であり、回答者は包括の社会福祉士またはそれに準ずる者とした。また、本調査の周知と協力及び円滑な実施を図るため、調査対象とした包括及び当該包括を所管する主管課1,913箇所に対しても調査協力依頼文の発送をし、本調査の趣旨への賛同を得て回答を求めた。
(4) 倫理的配慮	調査協力依頼文と調査票の表紙に回答は厳重に秘密を守って統計処理を行いプライバシーが外部に漏洩することはない旨を記した。加えて、データクリーニングの際に、調査対象者や調査対象となった包括を特定することができないように必要に応じて、自由記述の文章にマスキングを行った。

3

II. 方法

(5) 分析方法

本研究では、「あなた(回答されている方)は、地域包括支援センター圏域において地域ケア会議を開催していくにあたり、何が必要だと思われますか。ご自由に記入下さい。」という問いへの回答であるテキストデータ(n=695)を分析対象とした。

分析方法はKH Coder (Ver.2.beta.32h)を用いたテキストマイニングによって計量的にテキストデータの分析を行った。具体的な方法は潮谷(2012)、樋口(2014)を参考にしつつ、下記の通りを行った。

- ①記述統計量の算出及び頻出150語に関する分析、
- ②媒介中心性による共起ネットワーク分析、
- ③KWIC(Keyword in context)コンコーダンス分析及びコロケーション統計による分析を行い、当該分析結果を踏まえて同義語を選定し、

再度、上述した①から③の分析を行った。

4

同義語処理後の結果

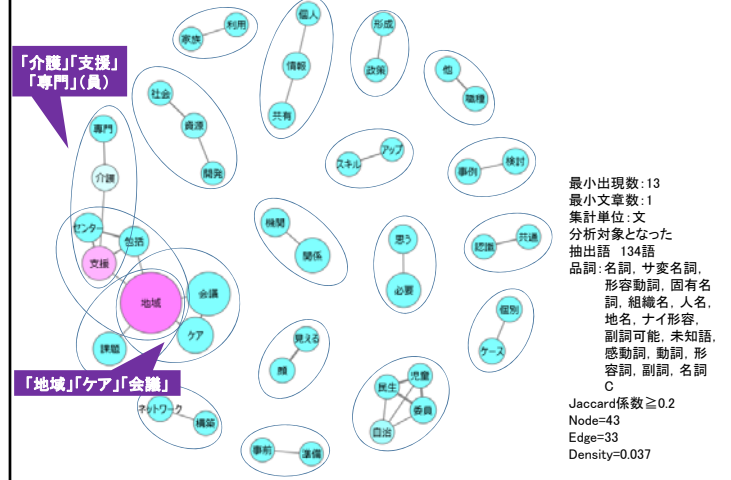
表Ⅲ-4 抽出語の基本統計量

総抽出語数	25,306
異なる語数(使用)	1,755(1,439)
抽出語の出現回数 の平均	8.12
抽出語の出現回数 の標準偏差	35.16
文	1,955
段落	1,206

表Ⅲ-5 頻出上位150語の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	783	把握	55	持つ	31	相談	19
会議	427	事例	54	スキル	29	交渉	14
ケア	273	職員	54	自治	29	大切	14
関係	243	意識	52	日頃	19	政策	14
必要	235	資源	52	医師	26	メンバー	14
支援	221	前	49	構成	26	多い	14
文	1,955	課題	215	見える	48	システム	24
段落	1,206	理解	174	人	48	個人	24
		参加	149	明確	48	事前	24
		包括	141	考える	47	担当	24
		開催	131	解決	46	知る	24
		連携	129	医療	44	運営	23
		センター	128	時間	43	確保	23
		福岡	120	出席	43	業務	23
		思う	119	出席	43	関係	23
		情報	94	他	41	準備	23
		目的	93	福祉	40	調整	23
		住民	88	社会	38	利用	23
		専門	85	体制	38	実施	23
		共有	84	問題	38	抽出	22
		介護	75	市	37	意見	21
		行政	74	内容	36	家族	20
		協力	70	児童	35	感じる	20
		検討	65	共通	34	困難	20
		ケース	63	認識	34	作る	20
		ネットワーク	60	構築	33	団体	20
		行う	60	事業	33	それぞれ	20
		周知	58	役割	32	サービス	19
		個別	56	高齢	31	進行	19
						連携	14
						協議	14

同義語処理後の結果



最小出現数:13
最小文章数:1
分析対象となった
抽出語 134語
品詞:名詞, サ変名詞,
形容動詞, 固有名
詞, 組織名, 人名,
地名, ナイ形容,
副詞可能, 未知語,
感動詞, 動詞, 形
容詞, 副詞, 名詞
O
Jaccard係数≥0.2
Node=43
Edge=33
Density=0.037

図Ⅲ-4 同義語処理後の共起ネットワーク

図Ⅲ-5 抽出語「地域」のコロケーション統計

地域ケア会議

● 複合語を作成し、強制抽出をする必要があるということが分かった。

図Ⅲ-6 抽出語「地域」のKWICコンコーダンス分析

地域包括ケア
地域包括ケアシステム

● 複合語を作成する上で留意する必要があるということが分かった。

図Ⅲ-7 抽出語「利用」のKWICコンコーダンス分析

利用者

図Ⅲ-8 抽出語「他」のKWICコンコーダンス分析

他
職種
多(他)職種

● 同義語処理をした語句
については強制抽出
をする必要がある。

IV. 考察

- 同義語処理を行い、分析した結果、抽出語同士の共起関係に着目すると、下記に示すようなキーワードが推察された。

表IV-1 共起関係から推察された地域ケア会議開催上の要件に係るキーワード

「家族」「利用(者)」	「地域」「ケア」「会議」
「個人」「情報」	「地域」「課題」
「情報」「共有」	「関係」「機関」
「政策」「形成」	「共通」「認識」
「他」「職種」	「顔」「見える」
「社会」「資源」「開発」	「個別」「ケース」
「スキル」「アップ」	「ネットワーク」「構築」
「事例」「検討」	「事前」「準備」
「介護」「支援」「専門力(員)」	「民生」「委員」「児童」「委員」
「地域」「包括」「支援」「センター」	「自治(体)」

- 「全国包括調査」のテキストデータを用いて地域ケア会議の開催要件について実証的に明らかにするためには、今後の分析として、複合語の選定や、解釈を容易にするために、品詞の選定等の手続きが必要になることを指摘しておく。
- これらの手続きを行った分析結果の詳細については、平成27年9月に開催される日本社会福祉学会にて奥村ら(2015)として報告予定であるということを付記しておく。

13

文献

- 樋口耕一(2004)「テキスト型データの計量的分析—2つのアプローチの峻別と統合」『理論と方法』19(1)101-115.
- 樋口耕一(2014)「社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して—」ナカニシヤ出版.
- 宮野澄男・潮谷有二・奥村あすか ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要—地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第18号』, 87-92.
- 奥村あすか・潮谷有二・宮野澄男 ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要—地域ケア会議の開催要件に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第18号』, 81-86.
- 潮谷有二(2012)「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究—社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して—」日本社会福祉学会編『対論社会福祉部会3 社会福祉運営』中央法規, 281-324.
- 潮谷有二・宮野澄男・奥村あすか ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要」『純心現代福祉研究 第18号』, 33-72.
- 吉田麻衣・潮谷有二・宮野澄男 ほか(2014)「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要—地域ケア会議の主たる構成員に関する自由記述の分析」『純心現代福祉研究 第18号』, 73-80.

※本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。

14